

癸未の新しい年を迎えて

会長 飯田 龍鷹

吾等の本拠地の大厦高樓の建設も急ピッチで進み、碧空にその骨格の一部を露した。丸の内千代田付近の再開発がいよいよ軌道に乗り、シツクな色の道路や、華やかな店舗の姿、

岳精流日本吟院

あゆみ

第 1 6 号

平成 1 5 年 1 月

千代田岳精会弘報

平成十五年度岳精流指標

礼と節

プロムナードに美しい人の姿も見受けられる。

さて振り返れば、旧臘十二月三日平成十四年の最終めく、りである温習会を、夫々の教場の創造性溢れる取組みの下、明るく楽しく展開した。大向を唸らせる吟芸の絶妙さあり、或いはまた抱腹絶倒の仕種ありで、誠に充実した一日を過ごし得た。本部より見えられた副幹事長さんより讃辞を頂戴して、努力の甲斐があったと云うもの。会を散じて、或る会員さんは咬いた「人生で、行く処がある」ということ、やる事があるということ、そして共に語る友人が居るといふこと、これは至福だ」と。日野原先生や石原知事の言われる如く、何時も希望と夢を抱いている吾等である。

さて、もう一つ振り返れば、今年平成十五年の癸未年、大正十五年生まれの私は、昭和十五年に紀元二千六百年の式典をやり、三つの十五年に長い月日と歴史の深さを覚える。そして戦後五十八年の中で、現行教育基本法が制定されたのを想い出す。そしてその法制定の過程で、GHQが干渉して、日本側の原案から「日本の伝統と文化の尊重」を削除

したのであった。勿論、民主主義と自由、個を日本の国民に理解せしめ、以て国粹主義、国家主義を絶滅せんとする意図であった。民主主義、自由主義にも素晴らしいものも見られた。だが反面、国を愛する心、公同心、家庭、就中、親子兄弟の愛情が希薄となり、皆様ご存知の通り、聊か嘆かわしい世情が生まれて来た。そこで中央教育審議会は改正案を公表、その中で「伝統と文化の尊重」を愛国心と密接に関連させ、子供達が日本の歴史と文化にも理解を示すような教育をしようとしている。国益を重視しつつも、外国と協調せねばならぬ国のあり様にも連なる。個を尊重しつつ、公を又重んずるものである。

そこで、宗家の信条「真善美」が光を放つ。日々の清吟には、詩歌には、この伝統と文化を尊重する言葉が心が、綺羅星の如くである。さあ吾等と一緒に、悠々と平和に健康に今年も歩もう。



星野久泉 <清水>

愈々千代田二百名体制と
吟道大学を目指して！
副会長 磯田 龍真

謹賀新年
皆々様良い年をお迎えの事と存
じます。新年に当り「蘇軾」の詩
を吟味し、今年の決意を新にした
いと思ひます。

別歳 蘇軾

旦らく一日の歡を為し
此の窮年の悲しみを慰めん
嗟く勿かれ旧歳の別れ
行くゆく新歳と辞せん
去々回顧する勿かれ
君に老と衰とを還さん
年月はとめども無く過ぎ去りゆく、
過去は振り返っても仕方ない。

遠藤幹事長ご逝去

岳精流創設以来、廿五年にわたり
宗家の右腕として流統の発展を担っ
て来られた遠藤精岳幹事長が、十二
月十四日ご逝去されました。
大変な功績を残された幹事長を悼
み、十六日の通夜、十七日の告別式
には宗家を始めとして、四百五十名
の岳精流の方々が全国より参列。
通夜の席では、ご愛吟の柳宗元作
「江雪」が献ぜられ、告別式では宗
家の心が籠もった弔辞に続いて、全

来る年も又別れる年なのだ！だか
ら毎日楽しく生きようではないか。
来る年にこう答えよう。「老」と
「衰」とは返上しますよ。送る
年、来る年毎に「還君老與衰」の気
概で毎日を送りたいものです。
ご存知、サミュエル・ウルマンの
「青春の詩」(YOUTH)に
青春とは人生の一時期を指すので
はない、心の様相を言うのだ！
(Youth is not a
time of life of
mind)
と一脈通じるものがありますね。洋
の東西を問わず「元気で行こう人生
は、何時も船出だ！出発だ！」と。
私は、恒々こう思っています。吟

員が安達漢城作「追悼の詞」を献吟
してお送りしました。
飯田会長が、遠藤幹事長に師事さ
れていた関係から、千代田岳精会に
は教場発足以来大変に目を掛けて頂
き、昇伝審査で直接審査を受けた会
員も多かった。温習会へ何度も出席
され、あの温顔で懇切なご指導を戴
く等、関わりが深かっただけに会員
に驚きと悲しみが拡がりました。
八十三歳とご高齢であったが、ま
だまだ教わりたい事が沢山あったと
の想いが深く残ります。
謹んでご冥福をお祈りします。

友には競争は無い。有るものは切磋
琢磨である。競争は丈夫で長生き競
走だけだ。

さて、今年も私達千代田岳精会は
他の会に類を見ない吟楽道場に取組
みます。文化活動を充実します。演
奏部門を新設します。詩歌の自主研
修を行ないます。指導部門を充実し
ます。新人対象の会長による吟指導
を行ないます。吟行会等々企画しま
す。夫々の人々が総参加体制の下、
吟友二百名を目指し、量質俱に吟道
大学千代田岳精会の飛躍の年にしま
す。お互いの教場を基本として、更
に仲間意識を高め、廿周年に向かっ
て前進しましょう。

「吟楽」「吟友」「吟恩」感謝、
精々、健康第一に頑張りましょう。
何卒、今年も宜しくお願いし、

摺筆。



+++++
平成十四年昇伝、師範・準師範
昇格お目出度うございます

- | | | |
|-------|----|----------|
| 皆伝 | 磯田 | 龍真 (副会長) |
| 奥伝師範 | 平岡 | 常風 (丸二) |
| | 岡根 | 光風 (丸二) |
| | 菅原 | 琴風 (丸女子) |
| 中伝準師範 | 林 | 筑山 (丸一) |
| | 加藤 | 鍊山 (鍊水) |
| | 勝田 | 賢山 (丸二) |

教場毎の構成吟に盛り上がる



温習会の緊張

ハザマ教場 萩原 晴久

ご来賓に和田精栄副幹事長、前澤龍淳婦人部長をお迎えした温習会は、飯田会長吟詠指導、新鋭が競った独吟コンクール、全国大会自主企画番組「俵屋玄蕃」の感動のビデオ、昨年より行なっているコンダクター合奏、教場毎の構成吟、武道館八位入賞のメンバリーの合吟等、多岐で話題性に富んだ内容であった。

四十二名が参加、熱戦が繰り広げられた独吟コンクールは、段の部、級以下の部で次の方々が入賞された。

優勝	萩原	晴久 (ハザマ)
準優勝	内山	雅彦 (神田)
三位	粕川	紘一 (神田)

段の部
優勝 二宮 祥修 (ハザマ)
準優勝 渡邊 正江 (神田)
三位 山手 純子 (丸女)
飯田会長より「全体にレベルが高い、有伝者に奮起が求められる」と。また、和田先生は「基本が確っかきしている。ただ、マイクをもっと上手に使うように」と講評頂いた。注目の構成吟は、各教場テーマを決め、趣向を凝らして登場、カラーが反映され盛り上がった。お二人の優勝者をご紹介します。

年に一度の千代田の温習会が刻々と迫って来ると、期待と不安で胸が高鳴る。他にも発表会としては岳精流全国吟道大会、吟剣詩舞道大会等あるが二年生の私としては、ようやく千代田他教場の皆様の顔も、ある程度覚えて身近に感じられるようになり、余計プレッシャーが大きくなるように思う。特に今回は独吟コンクールがあると云うから尚更である。晴れの舞台上で大勢の聴衆を前に堂々と発表するには、日頃の鍛練あるのみと解かっている、その鍛練が不足だから不安が先に立って自信に繋げられない。出番直前になって喉が渇き、水を飲み顔を洗って頭を冷やして待機席に着く。いよいよ本番、鈴木先生のコンダクターの音色もあり耳に入らない。どちらかと云うとマイペース、吟じ終わって自席に戻って「あ、終わった」と云う安堵感と充実感、この感慨がこたえられない。このプレッシャーと達成感を味わうためにチャンスがあれば、他の色々な大会にも挑戦してゆきたいと思っています。

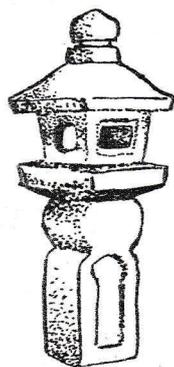
吟友と共に

ハザマ教場 二宮 祥修

私が吟を始めたのは、第一に現役時代には多忙で読めなかった詩に親しむ事が出来る、第二に普段会う事の無かった社友に会って吟の後で一杯やれる、第三に元気な老吟友と共に吟じて居れば元気が保てる。と云った若干不純な動機からであります。習い始めて二年九ヵ月、初期目的は充分に達しておりますが、最近吟を聴く事も吟ずる事も楽しく、面白くなって参りました。今回の温習会では、図らずも優勝させて頂きました。人と競い合うのが目的では無いので多少戸惑いはありますが、嬉しい事は確かであります。

飯田会長、鈴木教場長並びに教場の諸兄に心より感謝致します。ただ習った通りに、無心に吟じた迄で、まだまだ未熟である事は自覚して居ります。

これからも吟友と共に吟じ、呑み、語り、楽しく研鑽を重ねたいと思っております。諸先生並びに吟友の皆様の一層のご指導をお願い致します。多謝。



テレビ歌番組で司会の練習

清水副教場長 大槻 銈山

今年千代田岳精会メインイベントの温習会は成功裡に終わった。今回の特色は矢張り有伝者を対象とした教場毎の構成吟であろう。早くから各教場が意欲的に取組み練習に励んでいるとのニュースが伝わり、清水教場も頑張らないと遅れをとるとの思いが全員の中にもあった。

幸にわが教場は村上教場長が、恐らくかなり前から胸に秘めていたと思える「長江下り吟詠の旅」の企画を発表されたので、全員異議なく賛成した。

私の役割は司会であった。司会の良し悪しが全体に及ぼす影響は大きい。私はそれからはテレビ歌番組司会者の声の大きさや表情、更に言葉の抑揚、感情の表現等を凝視してお手本とし、耳に心地よく伝わるよう練習を重ねた。本番では、はっきりと大きな声で気分を出して司会をしたつもりだったが、果してどうだっただろうか。

衣装も凝っていた。少しでも唐代の雰囲気近づけようと、村上ご夫妻手作りの頭巾をかぶり白髭をつけた。更に進行の合間毎に、湯山長老が筋金入りの中国語で場を盛り上げた。主演の七人の吟侍は夫々立派に精一杯吟じ上げ、喝采を博したことは

いうまでもない。各教場とも与えられた持時間を最も有効に費消し、最大限に努力したことが、今回の千代田温習会の成功につながったと誇りに思いつつ攔筆する次第。

感動した温習会

丸の内第一教会 福田 玲泉

今年の温習会は各教場毎の構成吟となり、昨年とは内容が大きく変わった。独吟・連吟・合吟・合唱・掛け合い・剣舞・日本舞踊等あって、どの教場もそれぞれ工夫を凝らしての企画、自分達の教場が最高の出来とばかりの熱演で楽しく盛り上がりました。当教場も「四つの八景」に続いて「刈干切歌」で最高の出来と、我身の吟の未熟さを忘れて勝手に思ってしまった。

会長の吟詠指導は、日頃全員が一堂に会して指導頂く事はあまり無いので、もう少し時間を取って戴きたかったのです。あつと言う間に終わってしまった残念に思いましたが「自然と人生（吾家の富）」では「静かにまた感動的に吟ずるように」とご指導があり、作者の心を少しでも理解する事が出来ればと改めて詩を読み直しました。終りの二行で「静かに観ずれば宇宙の富は、殆ど三坪の庭に溢るるを覚ゆるなり」と総ての物

事が籠められている。全員参加の盛り沢山のプログラムに昨年とは違った温習会に感動し充実した一日でした。

千代田岳精会温習会に参加して
ハザマ教場 内田 測

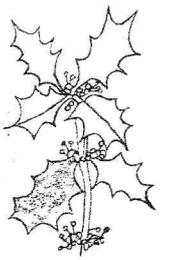
詩吟は学生時代及び社会人の頃に耳にする機会が度々あり、その心に響く魅力を感じておりました。

社会人の頃は、山中のダム建設に従事する事が多く、見よう見真似で詩吟を吟じるといふより、唸る程度に楽しんでいました。今年七月岳精会に入会し、ハザマ教場で飯田会長、鈴木教場長のご指導のもと、先輩諸兄の吟を聴き、勉強してきました。

今回、温習会の級以下の独吟コンクールに出場させて戴きましたが、当日は入会したばかりの一年生らしく吟じたいと自分に言い聞かせ乍ら壇上に立ちました。しかし緊張してしまいました。しかし先輩の皆様方の堂々とした詩吟に対する姿勢と集中力に感心しつつ、緊張して拝聴し、詩吟の奥深さを改めて学びました。私にとっては、この温習会とコンクール出場は貴重な経験であったと思います。

これからは、詩吟の心を理解して皆様のご指導を受け乍ら、吟の道に楽しく精進したいと思えます。

栄光の大舞台で渾身の吟



十一月十日「日本武道館」で開催された勤日本吟剣詩舞振興会の創立三十五周年記念大会には、千代田岳精会からも十五名が参加した本部男子が、昨年の下位入賞の雪辱を期し、宗嗣及び川添龍真青年部長よりの毎回三時間にあぶ厳しい指導を、六月廿四日から十二回積み重ね出場。

当日の状況については、舞台上に立った出吟の方々の感想文をお読み頂きたいが、結果は並み居る強敵の中で、堂々と八位入賞という期待以上の成績であった。しかし、先輩の偉業に比すと、満足することなく、更なる精進を心に誓わせる順位だ。熱心かつ懇切なご指導に厚くお礼申し上げ、出場者の健闘を讃えます。特に、練習で学んだ事は参加者一人ひとりの大きな財産となったと思われる。

全員心を一つにした力吟

清水教場 徳本 順泉

錦秋の十一月十日、武道と芸道の殿堂日本武道館で財団創立三十五周年記念全国吟剣詩舞道大会が開催された。恒例の合吟コンクールが行なわれた。当本部も昨年に続いて出場。

私は千代田岳精会の多くの吟友と共に参加し、大変励みになった。

六月から宗嗣先生の特訓、川添先生の発声指導を受け、満を持しての出場となった。当日冷気残る朝七時、靖国神社大鳥居前に出吟者全員集合、宗家を始め幹部先生の見守る中、総仕上げの練習をして会場へ。磯田副会長も早々と激励に駆け付けて下さり、大変感謝し決意を新たにしました。

会場に近づくと、全国からの各チームが方々で放吟する様を目の辺りにし、各流統の意気込みと吟界の裾野の広さを実感させられた。

出番は六番目、早いだけ早朝稽古の勢いをそのまま持続し、全員心を一つにした力吟が会場に響き、我が吟詠はここに終わった。

大会のもう一つの目玉は午後に行われた明治天皇ご生誕百五十年記念番組「明治維新に学ぶ」この時代の人物・思想・文化等の歴史の流れを吟詠と剣詩舞で訪ねる内容。私はこれを見て維新を生きた英傑達の、民を思い国を憂う志の素晴らしさに胸をうたれ、戦後五十年忘れていたものは何かを考えさせられた。日本には立派な先駆者があり、伝統ある文化があるのに、教育の場で無視され

続けるのは大変残念で、それを補う意味でも吟道の発展を願って止まなるところ。

そうこうするうちに成績発表の間、結果は八位入賞で優勝は逸したものの昨年を大幅に上回り、各人それなりに頑張った満足感で打上げの宴は大いに盛上がり、有意義な一日は終わった。

宗家を始めご指導下さった先生方に改めて感謝申しあげたい。

武道館合吟コンクール雑感

神田教場 町田 湧泉

去る十一月十日、武道館合吟コンクールに「岳精流日本吟院男子」チームの一員として出吟し、幸いにして、八位入賞の結果を得た。

当日は早朝、靖国神社大鳥居前に集合。宗家も見守る中、宗嗣の指導で最後の特訓が行なわれ、寒さで調子の乗らないままに武道館に乗り込んだ。全六十六チーム中、六番という早い出番なので、早々と楽屋入りする。五番目チームの後、壇の下に整列すると、やっと落ち着いた感じになった。

いよいよわがチームの出番。吟題は「漢江」杜牧作、三本。チームリィダーの大竹龍松先生が朗々と吟じ出す。偶然、私と靖国神社一番乗りをした人だが、とにかく肚が据わっ

ていて、物事に動じない。全員この「吟じ出し」につられたかのようにトップスピードで走り出した。私の隣はコンクールの常連、神田の林教場長だったが「なかなか良かったんじゃないの？」と終わった後言っていた。宗嗣も、場内で本番の吟を聴いて「気分的に楽しくなった……」と述懐されていた。

独吟は、良くも悪くも全て自分の責任で済む。合吟は、声が揃うことが揃うことが大前提で、三本が苦しいからと、低音にしたりしたら全員の足を引く張る結果になってしまう。本部での特訓中、宗嗣から「そうゆう時は口だけ開けて、声は出すな！」と教えられた。こういった「演技力」の成果も有ったに違いない。

一分五十六秒に心は一つ
丸の内第二教場 山口 隆泉

去る十一月十日、全国吟剣詩舞道大会の日。早朝五時四十五分の電車で寒気を感じる中、靖国神社境内に集合。七時前にメンバー全員揃う。宗家より激励の言葉を戴き期待に応え上位入賞を心に誓う。振り返れば六月より川崎本部で午後六時より二時間半の練習を十二回行なった。熱心な宗嗣のご指導を中心に、川添青年部長よりの素読の大切さ、姿

勢、発声と厳しく指導頂いた。そして今日その日を迎えた。

会場入口は異様な雰囲気だ。女性の合吟がくり広げられている。六十六団体中吾々は六番目の出吟であった。緊張のなか、大竹リーダーの先導でスタート。五十一人は、心を一つにして杜牧の「漢江」を一分五十六秒で吟じ終えた。その瞬間満足感のようなものが全身を走った。十六時三十分、入賞廿五団体の発表、吾々はまづ入賞を果たした。そして堂々第八位入賞となった。久しぶりに味わう感動だった。人間何歳になっても「感動する心」を味わうことは捨てたものではないと思っただ。一分五十六秒に挑んだ一日であった。



全国吟詠合吟コンクールに出場
東陽町教場 植村 太泉

快晴の十一月十日、靖国神社大鳥居前七時集合、宗嗣先生指導のもと発声練習から始まり合吟練習三回、各自服装点検を済ませた。宗家より激励のお言葉を戴き勇躍武道館へ、全国から各流派の精鋭が

集い特に女性が圧倒的に多い、席に着く間もなく舞台裏に整列。「六番『漢江』岳精流日本吟院男子」のアナウンス、緊張と胸の鼓動を抑え壇上へ、大竹リーダー先導で全員声を合せて精一杯吟じた。

今回の特別企画は「明治維新に学ぶ」一明治天皇生誕百五十年に寄せて一と題して吟詠・剣舞・詩舞を充分に堪能出来た。いよいよ結果発表、足。これも十二回に亘り宗嗣先生、川添先生の熱心なご指導で発声練習、呼吸方法、姿勢などいろいろ教えて頂いたお陰と感謝の気持ちで一杯です。有難うございました。

入賞祝賀会は渡 精華先生を交えて盛大に行なわれた。五十一名の吟友、更なる飛躍を目指しお互いに元氣である事を祈り、今後とも宜しくお願ひします。

全国吟剣詩舞道大会に参加して
ハザマ教場 前田 達也

私は昨年の大会に出場させて頂く予定が、病を得て欠場となったこともあり、今年は若輩ながら精一杯頑張ろうと半年間に十二回の特訓を先輩の皆様と共に受けて参りました。十一月十日、早朝七時前岳精会本部男子五十一名が靖国神社境内に結集しました。宗嗣の指導で、声馴らし、合吟総仕上げ練習、ここで宗家

奥伝師範について
丸の内第二教場 岡根 光風

二カ月余り、家内の通院の付き添いと私の右肘痛で教場を休んでいた私に、岩崎先生より試験の内容とアドバイスのFaxが届き、ギブスの取れた十月三十一日 飯田会長の特訓後三日間の猛勉強、肘の痛みを抱え困難な試験でしたが、結果は運で合格、両先生に感謝・感謝！。さて、振り返りますと磯田先生に勧められ、飯田会長も尊敬出来る仕事仲間でしたので入会。関西生まれの私はアクセントで苦勞し、他人の二・三倍の努力が必要と考え、飯田会長の週一回の特別指導日に特訓をお願いし努力した當時を思い出します。その後、は音域を広げる正しい発声。正確な表現を努力して参りました。當時は自分が奥伝まで行けるとは夢にも思いませんでした。健康の為に五、六年続けばよいと思いはじめました。永く続いたのは

① 千代田の皆様が良い人ばかりで励みを受けたこと

② 岩崎教場長の的確な指導と、磯田副会長のアドバイスにより少しづつ上達したこと

③ 千代田の各教場に指導力のある優秀な教場長が揃っていること。私も二三の教場でお世話になりました。

皆様も必ず奥伝師範になれます。私も今年より風に相応しく吟じられるよう努力します。また、今迄に關係のない分野から一人一人集めて小型分室に挑戦して参りたいと考えております。ご支援下さい。

準師範試験を受験して

錬水副教場長 加藤 錬山

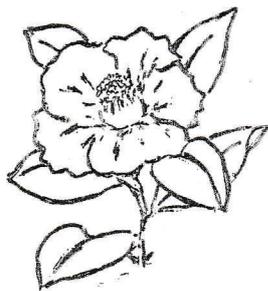
『本日参集の皆さん方は、栄えある我が流統の宝であります』この日、北は北海道から南は沖縄まで、日頃の研鑽修道の想いを示さんと審査に臨んだ吟生諸氏を前に、袴姿に威儀を正した宗家の、暖かく且つ力強い励ましのご挨拶で始まった。

ふと、講堂の高窓に眼をやると、天は高く澄み渡り、碧空尽きる処をしらすの感。その清々しさに、心中雲一つない落着いた心境になり、受審前の不安もスツと消え、よし頑張ろうと心が落着いた。

「始め！」の合図で一問ずつ丁寧に書いて行く中に、時間も過ぎ、まずまずの結果で終る事が出来た。それもこれも千代田が持つ良き学習伝統、事前受験者が当然具備すべき素養、心構えにつきキチンと予習させる特別講習・模擬試験制度に助けられた事が極めて大きい。ややもすると不勉強になりがちな私もこの良き制度に導かれ、何とかこの階段を上るこ

とが出来た。有難い事です。その当日は、正副会長を始め多くの幹部の方々が緊張を解きほぐすべく、応援に駆け付けて頂き、どれ程落着けた事か。全てを終えての帰路頬を撫でる晩秋の風も心地よく、壇上、遠藤幹事長が紹介された千利休の教え「稽古とは一より習い十を知り、十より返るもとのその一」が心中に豊かに膨らんで行き、何か力の沸いてくる夕暮れであった。

皆々様に感謝。
(遠藤幹事長が急逝され、この言葉が我々に遺されました)



平成十五年全国吟詠コンクール

三月廿九日(土)「サンワークかながわ」で開催の岳精流全国吟詠コンクール「寿栄の部」に次の方々が出場されます。

日々の研鑽の成果を十分に発揮され、ご健吟を期待します。

- 渋谷 辰泉 (東陽町)
- 寺沼 智泉 (清水)
- 町田 湧泉 (神田)
- 中川 睦泉 (ハザマ)

♠ 年男。年女 ♡

今年の干支は癸未です

『恕』について

丸の内第二教場 稲井 碩山

平成十五年未年にあたり、弘報より素晴らしい原稿依頼文に接しました。拙文を差し上げる事としました。

それは「恕」という言葉です。

或る日、彼の聖人孔子が弟子の一人から質問を受けました。「人間としてこの世で一番大事なことを一言で表現するとそれは何ですか？」孔子曰く「それは『恕』です」。強い日本語に訳すと、それは『思いやり』ということとす。今の日本人に一番欠けていることではないでしょうか。自分さえ良ければいい、他人のことを思いやる心がない。これ日本の政治、経済、福祉、教育、日常生活が良くなるのでしょうか。

世界の平和もそうです。孔子を生んだ中国、超大国のアメリカ、イラク、北朝鮮もこれで良いのでしょうか。世界人類の一人一人が『恕』の精神を発揮してこそ、真の平和が訪れるのです。

いみじくも宗家が昭和五十九年一月岳精語録（続）一七一頁に述べておられます。『思いやり』

一人一人の吟に拍手を贈ろう。今年も明るい希望をもって必ず世の中は良くなると思つて精励して参ろうとおもいます。

詩吟について

丸の内第二教場 島田 華泉

私は、今仕事の係がふえまして、忙しく過ごしていますが、自分流に声を出して練習しています。

わくわくする高揚感は勿論ですがのめり込むほど私自身の興味を引き出してくれる、視野を拡げてくれる点も趣味の効用でしょうか。

少しばかりの競争心も、時を超えて上達したいという向上心は、生きる張りになっていきます。

何かを始めるのに年齢は関係ないと思ふし、遅すぎることとも。

私を自由の時間が、詩吟が迎えてくれます。

美しい日本語を守ろう

ハザマ教場 有馬 幸雄

この所一寸した日本語ブームである。斎藤孝の「声に出して読みたい日本語」などが本屋にずらりと並んでいる。この本には源氏物語などの古典から詩歌（漢詩を含む）俳句・歌舞伎などあらゆるジャンルの珠玉作品が収められている。

声を出して読むと脳は活性化しやすい。意味が分からなくても音読する所に読む事の素地、素養が作られる。それは「読書百遍意自ずから通ず」という事にもなる。鷗外、漱石、露伴らの人も幼年時代「四書五経」の素読を受けて育ってきた。昨今の若い人の言葉の悪さ、ボキャブラリーの貧困さ、敬語の無理解さを聞くにつけ「美しい日本語とそのリズムテンポ」を習得する事が日本古来の伝統的淳風美俗を後世に伝承していく方策であると確信する。

言葉美しくする事は驥の始まりである。

詩吟との出会い

丸の内女子教場 洲戸 和子

昨年四月、婦人部の先生のお誘いを受け、初めて詩吟の会に人會して以来、まことに快い響きが心に沁みてまいりました。とくに合吟のときが心休まるときでございます。一人での吟詠は上がってしまうので困っております。

このように練習日を心待ちにしておりましたが、八月猛暑にやられて体調を崩し、ようやく十一月から復帰し、また仲間に加えていただくようになりました。

九月に孫娘が誕生し、今年は私の干支でもありますので心機一転、優

しく楽しい先輩方と前向きに取り組んでいこうと存じております。
どうぞよろしくご指導くださいますようお願い申し上げます。

「ゴールドンエイジ」にしよう

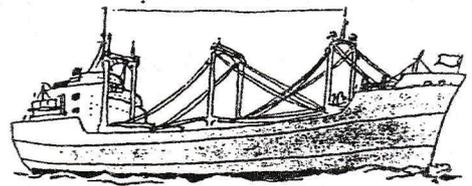
丸の内第二教場 杉野 統山

「15・16・17と私の人生暗かった過去はどんなに暗くとも夢は：」これは、ご存知藤圭子の歌った「圭子の夢は夜ひらく」の歌詞です。
昭和六年生まれの私達は丁度この歌詞のようでした。十四歳の中学二年の夏に、北朝鮮羅南（今話題の）で終戦を迎え、一年間38度線封鎖で感興にて集団生活、廿一年五月に一週間かけて昼は山の中に寝て、夜案内人を頼りに南下してやっとの思いで38度線を突破、六月八日に博多に上陸、十五歳は引揚げて来たはよいが食糧難、育ち盛りに空っ腹は応えませんでした。このように過去は暗かったのですが、全く悪いことばかりではなく旧制中学が学制改革により高校に無条件進学出来たのです。
さて、紅顔の美少年も（今でもそう思っています）はや七十二歳、老人医療の保険証を手にすると「歳だなア」と思うこともありませう。然し乍ら詩吟を勉強した事により、これからの人生をゴールドン・エイジにしようと頑張るつもりです。

どうぞ宜しくお願いいたします。

二回日の癸未

錬水教場長 菅原 克山



三月末で会社を卒業します。
昨年十一月に心臓のバイパス手術を受け、記録更新の五日目で退院、（医者に見離された訳ではありません）十日日にはスポーツクリックで体力測定。脚力、心臓とも健康な人をはるかに凌ぐ好成绩でドクタ―もびっくり。
一廻りした新しい歳、永らく勤めた会社も無事卒業。新装なったエンジンも絶好調、さあ、ぶっ飛ばすぞオ！
さて、なにやるかな？？？
まあ、見習うべき諸先輩には事欠かないんだから、ポチポチやるとして、その道のご指導よろしくお願いします。

たのしい世界

神田教場 加藤 千恵子

詩吟については、何も知らず、無縁のものと思っていたところ、橋本淳泉さんからお話があつて、教室を訪ねました。そこで実に楽しいところだ！ということを見ました。
吟が上手でなくても、上手と褒めてくれるんですね。早速、入会をお願いしました。そして、もう半年もたつてしまいました。昨今は少しづつ夢というか欲もでてきました。新年は「発声」を勉強して、皆さんのレベルに近づきたいと思うようになりました。本当に詩吟教室は楽しい世界ですね、新しい発見をして、いま喜びで一杯です。
（ご寄稿有りませんでしたがこの他4名の方が年男・年女でした）

全国吟詠コンクール地区予選

（吟剣詩舞道総連盟）

昨年、大勢の決戦進出者を出した地区予選は、次のとおりの日程で開催されます。出場申込みはハザマ教場の十名を筆頭に合計三十八名とこれまで最多数の昨年を大きく上回りました。くれぐれも風邪に注意して昨年以上の成績を期待します。

港区連 三月十六日（日）
品川区連 三月廿一日（金・祭）

平成十五年度昇伝審査指定吟題

初伝 百忍の詩 中江 藤樹

雪中の雑詩 市河 寛齋

中伝 江戸客裏雑詩 頼 杏坪

七歩の詩 曹 植

(短歌) 函館の 石川 啄木

多摩川の 岡本かの子

奥伝 春初感を書す 安積 良齋

問梅閣 高 啓

(俳句) 春ここに 横山 岳精

皆伝 さらさらと 正岡 子規

金陵の鳳凰台に登る 李 白

旧都の月 角光 嘯堂

前田 道泉氏(東陽町教場)

「秋の吟行句会」で大賞受賞

九月廿四日後楽園で開催の、俳句

各流派合同俳句「秋の吟行会」に参

が漢詩に造詣が深く、西湖と蘇軾の

関係を読み取って下さったことが受

賞に繋がったと思います。

婦人部着付け教室

名園で華やかに開催

晴れの舞台を和服でと、婦人部菅

原琴風リーダーの指導で、十一人が

参加し着付け教室が開催されました。

婦人部着付け教室に参加して

神田教場 村井 蓉泉

十月十八日、菅原先生のご指導で

着付け教室が小石川後楽園涵徳亭で

開催され、先生を含め十一人が参加

しました。当日は曇り空、まだ紅葉

には早い緑深き庭園を皆で散策、静

かな心にて教室に入りました。

最初に先生手作りのテキストで着

ることが出来ました。悪戦苦闘あつ

と言う間の二時間でした。

その後、懐石料理を頂きながら、

冷たいビールで喉を潤し、八時三十

分解散しました。まだ独りで着られ

るようになるには先が長いようです

ので、又このような教室を開いて頂

けますようお願い致します。

とてもよい勉強になりますので、

皆様も是非参加してみても如何でし

ようか。

平成十五年本部及び

千代田岳精会行事日程

三月廿三日(日) 宗家全国研修会

三月廿九日(土) 全国吟詠コンク

四月十九日(土) 昇伝審査(予定)

五月廿二日(木) 合祀祭

「教場だより」

古都鎌倉吟行
鎌水教場 本田 昭夫

十月廿六日夕方、鎌倉駅集合総勢十三名。鎌水教場初の吟行会の始まりです。井手先生、応援の太田、花山、青木の三美女。そして鎌水教場最強の応援団長「長寿庵」の女将松井さんも参加してくれました。

当日の宿は材木座の「ブルーマリ鎌倉」豪華な舟盛りで乾杯、お酒と料理にも大満足。それから温習会の特訓、皆がみな、自分が優勝との意気込みで先生や先輩達の熱い指導を受けました。

翌日は、日頃のおこないが良いせいか曇一つない日本晴れ。早朝の爽やかな光明寺大山門をくぐり、吟行開始です。静かな雰囲気の中で「芳野懐古」と堂前にあった光明寺御歌「出る日も 入る日もともに 南無阿弥陀 仏の光 うけぬ日ぞなき」鶴岡八幡宮の長い参道を通り、歴史を残す大銀杏の石段の上の本殿で参拝、太鼓の音を聞きながら「常磐孤を抱くの囀に題す」と実朝の短歌「大海の」を合吟しました。

長谷寺へは江ノ電で、見晴しのよい本堂前で、虚子の「虹立ちて」と句碑「永き日の われらが為の 観世音」を吟じて合掌。続いて鎌倉大仏です。全てを飲み込み、ただひた

すら、座り続ける気高さに、改めて感動しました。岡本かの子の句碑の前で「鎌倉や…」を何度も合吟、周囲には見物客も集まり力も入ったところでした。



お腹も十分に空いたところで正華楼へ向かいました。この昼食会は本人だけに内緒で松井女将のお祝いをする事になっていたので。女将が川柳エッセイ集「あなたのそばに」を出版したので、入口の予約看板に「松井まさ子先生の出版を祝う会」と仰々しく書いて貰いました。本人は勿論、皆で大喜び大笑いしました。この本は、先日のNHK土曜ホットで山根基世アナが取り上げ、全国ネットで放送されましたし、福岡の

中州通信でも紹介されたりで有名人の友達が出来た感じでした。その後は鎌倉文学館で高尚な勉強もし、盛り沢山な吟行会を終えました。皆さんお疲れさまでした。

「新 会 員 紹 介」

◇丸ノ内女子教場 藤原 寿子さん(十一月入会)

明生運送印刷(株)を、十一月に目出度く退職、教場発足時から時々顔を出しておられたが、卒業してから入会との意志が強く、今回正式に入会となりました。

◇清水教場 山口 勝氏(十一月入会)

尾洲半田の産、真珠湾攻撃の十日後の出生で、父君が戦に勝利するよう祈念「勝(まさる)」と命名された由。歴史や故事に強い興味があり、ただ読むだけでなく声に出して歴史を実感したいとして入会。清水教場期待の新人です。

編 集 後 記

「ちよだ」の編集を引受けて三年、未熟ながらいつの間にか九回発行致しました。毎号沢山のご寄稿をくださった会員、その取り纏めから、校正まで引き受けて下さる先輩弘報スタッフの皆様のお陰と肝に銘じ、感謝致しております。(八田)